

石山与五栄展

西蒲原の自然と暮らしを見つめた写真家

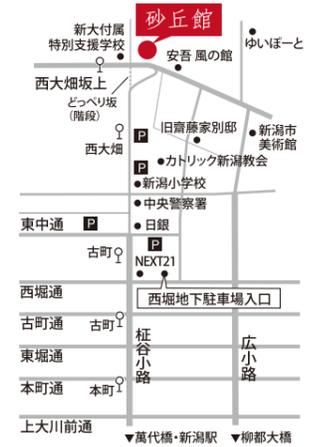
3会場開催・観覧無料

◆角田山妙光寺・客殿

◆巻郷土資料館

◆砂丘館（旧日本銀行新潟支店長役宅）

*開館時間は各会場で異なります（裏面参照）



会場1 角田山妙光寺・客殿
西蒲原の自然といとном

新潟市西蒲区角田浜1056 tel.0256-77-2025
観覧時間:10:00-16:00
主催:石山与五栄門展実行委員会
共催:角田山妙光寺
協力:砂丘館
※巻駅、越後曾根駅からタクシーで15分
巻駅前から「角田妙光寺入口」バス30分
巻潟東ICから車で25分

会場2 巻郷土資料館
「地域で生きる」ひとびと

新潟市西蒲区巻甲3069-1 tel.0256-72-6757
観覧時間:9:00-16:30
主催:西蒲区文化施設を運営する市民の会
新潟市巻郷土資料館
共催・企画協力:石山与五栄門展実行委員会
協力:砂丘館
※巻駅から徒歩10分
巻潟東ICから車で15分

会場3 砂丘館(旧日本銀行新潟支店長役宅)
鰯漁と水辺のひとびと

新潟市中央区西大畑町5218-1 tel.025-222-2676
観覧時間:9:00-21:00
主催:砂丘館
共催・企画協力:石山与五栄門展実行委員会
※新潟駅万代口から浜浦町線C2系統バス、又は
観光循環バス「西大畑坂上」下車徒歩1分
※駐車場はありません。新潟市西堀地下駐車場を
ご利用の方は駐車券提示で1時間無料券進呈

〈休館日:月曜日(10/10を除く)及び10/11、11/4、角田山妙光寺のみ11/6も休〉

協賛

株式会社アクアデザインアマン

私たちは砂丘館を応援しています

株式会社

NSGグループ

新潟ビルサービス

丸屋本店

藤田金屋

WIND

郷土の文化に親しむ会 片桐奈保美

門 2020.10.8(土)
2021.11.13(日)
休館日は裏面参照



カメラを構える石山与五栄門 / 1953年



五ヶ浜製塩の作業 / 1950年代(推定)



鰯湯 / 1960年代(推定)



上原誠氏の盆栽 / 1959年1月



小浜立岩 / 1959年7月



仁箇保育所運動会 / 1957年10月13日

石山与五采門が撮影し、写真家齋藤文夫に託されていたネガフィルムの画像すべて(16450点は新潟大学地域映像アーカイブ研究センターによってデジタル化され、今年の春から「いがた地域映像アーカイブ・データベース」で閲覧できるようになった(なお、ジャパンサーチでも一部見ることが出来る)。

それを記念して、石山が旧巻町職員として長年館長を務めた巻郷土資料館(現在は新潟市の施設)、石山が撮影に何度も訪れた角田山妙光寺、2019年の「潟の記憶展」で石山の写真を紹介した砂丘館の3会場で、同時に石山与五采門の写真展を開催する。

石山の業績としてはまず、彼が生涯を過ごした巻町周辺(新潟県西蒲原地方)の民俗、文化、歴史を研究紹介した「巻町双書」の刊行を挙げなければならない。公民館活動にも熱心だった彼は、個人としてだけでなく、その時々の研究活動や町の広報、観光記録などの仕事でも撮影をおこなっていた。対象が自然、風景、人々の暮らしや様々な行事、仏像、書、書籍(の複写)など多岐にわたっているのはそのせいと思われる。

しかし、そのどれもにも石山は「仕事」を越えた情熱を注いだ。西蒲原の生活文化への強い関心が根底にあり、同時にはげしく変わっていく時代の変化によって消えゆく運命にあるものを写真と言葉によって記録しておくなくてはならないという使命感があったのかもしれない。なかでも執拗と言っているほどレンズを向け続けたのが1966年に干拓で姿を消した鰯湯だった。巻町双書で石山は『写真集 鰯湯』を刊行したが、生前没後を通じて写真集としてまとめられたのはその一冊のみだ。

しかし、改めて残された写真群を閲覧すると、石山の写真には過去の「記録」であることを越え、私たちの感性に強く働きかけてくる「写真」としての魅力にあふれたものが多いことに気づく。一点指摘するならば、光に対する繊細な感受性である。西蒲原の自然や暮らしに降り注ぐ季節季節の光が、昔原や川や教室や浜辺や町の辻で彼のカメラに生きたままキャッチされている。さまざまなものが大きく変わってしまった新潟の「景」が、今も変わらない、私たちが呼吸している同じ光に照らされ、現在形の「光景」として見えてくるのはそのせいだ。

今回の展示は「西蒲原の自然といとなみ(妙光寺)」、「地域で生きる」ひとびと「巻郷土資料館」、「鰯湯と水辺のひとびと」(砂丘館)の3つのテーマ構成で、新たに制作したプリント約240点(一部映像展示)を紹介する。写真家としての石山与五采門の再評価が、本展をきっかけに始まることを期待したい。

なお、今回の石山与五采門展は、各機関、組織の垣根を越えて、展示会場である妙光寺、巻郷土資料館、砂丘館、デジタルデータを提供する新潟大学地域映像アーカイブ研究センターの4つが連携し、有志により結成された石山与五采門展実行委員会と協力しあって実施するものです。

大倉宏(砂丘館館長)

*新潟大学地域映像アーカイブ研究センターでは、新潟の日常生活にある映像を発掘しデジタル化し、新たな社会の文化遺産として映像を甦らせるために活動をおこなってきました。現在、「いがた地域映像アーカイブ・データベース」では約19万点の映像を閲覧できます(閲覧には申請が必要です)。なお、国立国会図書館が運営する国のデジタルデータベースの集積サイトである「ジャパンサーチ」では、一般公開できる一部の映像を公開しています。

ギャラリートーク1(会場/砂丘館)

「石山与五采門の写真の魅力」
10月10日(月・祝)14時~15時30分

榎本千賀子(写真家・新潟大学助教)

原田健一(新潟大学フェロー)

大倉宏

聞き手/中村元(新潟大学准教授)

本展の企画者3人がそれぞれの目で見たと石山与五采門の写真の魅力を語ります。

●参加費500円 ●定員25名(要申込)

ギャラリートーク2(会場/妙光寺)

「石山与五采門の時代の西蒲原」
10月30日(日)14時~15時30分

齋藤文夫(写真家)

小川英爾(妙光寺院首ほか)

石山与五采門が写真を撮影した昭和30~40年代の
新潟、西蒲原の世界を語り合います。

●参加無料 ●定員30名(要申込)

〈ギャラリートークの申込みはどちらも砂丘館へ〉

電話・FAX 025(222)2676

Eメール yoyaku@bz04.plala.or.jp

申込み受付開始 9月21日



鰯湯 / 1962年11月2日



鰯湯の漁師 / 1960年代(推定)